

# 最近の酪農情勢（メモ）

令和2年2月22日  
日本酪農政治連盟

## I 外交交渉

### 1. 日EU・EPA交渉

2018年7月17日：安倍総理はドナルド・トウスク欧州理事会議長及びジャン＝クロード・ユンカー欧州委員会委員長との間で第25回日EU定期首脳協議及び少人数会合を実施し、日EU経済連携協定（EPA）及び戦略的パートナーシップ協定（SPA）に署名したと発表した。

### 2. TPP交渉関連

2018年8月：日米両政府は9日新たな貿易協議（FFR）の初会合をワシントンで開催した。米国側は自由貿易協定（FTA）を念頭に2国間交渉を要求。日本側は「環太平洋連携協定（TPP）復帰を」改めて促し、双方の考えの肌たりが改めて浮き彫りになった。

2019年1月：米国を除く環太平洋連携協定（TPP）参加国11か国は、19日、協定の運営を担うTPP委員会の初会合を東京都内で開いた。同委員会は、協定発効後の最高意思決定機関。国内手続きを完了し、60日たった「締約国」が正式メンバー。現時点では、メキシコ、日本、シンガポール、NZ、カナダ、オーストラリア、ベトナムの7か国が該当する。

### 3. 日米TAG交渉関連

2019年8月：自民党は20日、TPP・日EU・日米TAG等経済連携協定対策本部を開催し、ヤマ場を迎える日米貿易協定交渉への対応を協議した。出席議員からは、環太平洋連携協定（TPP）を超える農産品の市場開放を回避するよう求める意見や、期限ありきの交渉に釘を刺す声が上がった。（フランス南西部ビアリッツで24～26日に開催されるG7サミットに合わせた日米首脳会談で、合意に達するのではないかとの見通しがある）

2019年9月：26日農林水産大臣の談話が発表された。それによると、「本日、安倍総理とトランプ大統領が首脳会談を行い、日米貿易協定の最終合意に至った。農林水産品に係る日本側の関税について、TPPの範囲内とすることができた。我が国の国民の主食であるコメについて、関税削減・撤廃等からの「除外」を確保した。また、脱脂粉乳・バターなど、TPPでTPPワイドの関税枠が設定された品目について、新たな米国枠を一切認めなかった。さらに、牛肉についてTPPと同内容の関税削減とし、2020年のセーフガードの発動規準数量を昨年度の米国からの輸入実績より低い水準とした」などとなった。

### 4. 日英EPA交渉関連

2020年8月 茂木敏充外相と英国のトラス国際貿易相は7日、ロンドンで閣僚協議を行い、日英間の経済連携協定（EPA）の締結に向けて8月末までに大筋合意を目指すことで一致した。

2020年9月 茂木外相は11日、日本と英国の新たな経済連携協定を巡る交渉が大筋合意に達したと発表

## II 令和3年度畜産酪農対策

令和3年度畜産物価格・関連対策については、①補給金及び集乳調整金の単価は、経営意欲、担い手意欲を促す価格となるよう決定すること、②交付対象数量は国内の乳製品の需給状況を考慮し適切に決定すること、③加工原料乳等生産者経営安定対策事業は継続すること、などを要請した。

結果は、補給金単価が10.85円、対象数量は345万トン、所要額は374億円（前年所要額は374億円）となった。尚、集送乳調整金は2.59円/kg、加工原料乳生産者補給金は8.26円/kgとなった。

【指定肉用子牛】	保証基準価格	合理化目標価格
乳用種	164,000円/頭（164,000円）	110,000円/頭（110,000円）
交雑種	274,000円/頭（274,000円）	216,000円/頭（216,000円）

## III 令和3年度政府農林予算2兆3050億円(対前年比97.9%)で決定（概算要求）

令和2年9月2日の中央委員会の議を経て要請内容を決定、特に本年度は①指定団体機能の維持、②酪農ヘルパー確保、親元就農支援対策、③脱粉、バター過剰在庫対策、④乳用牛預託事業等対策⑤自給飼料対策、⑥家畜排せつ物処理施設等対策、⑦産業獣医師確保対策、⑧自然災害対策、⑨鳥獣被害対策を重点項目とし、要請運動を継続して展開した。これらの要請活動の結果、以下の事業等が政府案として決定した。

### 主な酪農関連対策

- ・加工原料乳生産者補給金（経営安定対策） {374億円（374）}
- ・畜産経営体生産性向上対策（ICT関連機械の導入、活用） {13億円（30）}
- ・環境負荷軽減に向けた酪農経営支援対策（エコ酪事業） {60億円（61）}
- ・畜産クラスター事業（機械、施設等整備 第3次補正予算） {481億円（409）}
- ・和牛・乳用牛の増頭増産対策 {第3次補正予算 11億円（11）}
- ・国産乳製品需要拡大緊急対策事業  
（主にバター活用拡大に伴う支援(コロナ禍の対策/第3次補正予算)） {16億円}

### ○ALIC事業

- ・酪農経営支援総合対策事業 {16億円(未定)}
- （中小酪農経営の生産基盤強化、育成牛ワクチン補助、乳用牛流通促進等）
- ・酪農ヘルパー関連対策【R3年度ALIC事業の内数】  
（ヘルパー待遇改善支援等） {10.1億円（9.0）}
- ・生乳の流通合理化対策 {4.1億円（5.1）}
- ・堆肥舎等長寿命化推進事業（規模拡大しない場合の堆肥舎の補修） {未定(2.1)}
- ・酪農労働力省力化推進事業（省力化機器の導入支援） {未定(5.50)}

\*（ ）内の数値は前年金額

## IV 関東生乳販連、令和2年度飲用向け乳価を据え置きで決着

令和3年1月28日、関東乳販連は令和3年度飲用向け、発酵乳向け、学乳向け乳価について、据え置きすることで妥結したと発表した。

## V 酪農家戸数14,400戸（R2.2/1現在 畜産統計. 農水省7/2発表）（ ）内は前年

	酪農家戸数[戸]	乳牛飼養頭数[千頭]	一戸当たり飼養頭数[頭]
全国	14,400 (15,000) 4.6%減	1,352(1,332)1.5%	93.9 (88.8) 0.3%増
北海道	5,840 (5,970) 2.2%減	820 (801) 2.3%増	140.6 (134.2) 9.2%増
都府県	8,540 (9,070) 5.9%減	531 (531) 0.0%	62.4 (58.5) 6.6%増

## Ⅵ配合飼料価格 (配合飼料給与、3.3 t/年・頭→1万円上がれば33,000円の負担増)

- R1年4～6月期850円下げ。令和1年7～9月期400円下げ。1年10～12月期650円下げ。
- 2年1～3月期700円上げ。4～6月期800円下げ。7～9月期800円下げ。10～12月期1350円上げ。1～3月期3900円上げ。

## Ⅶ最近の酪政連活動 《主な活動、下記は一例です。》

政府・国会 その他	酪政連・関係機関
R2年	R2.
1月 国内で初の新型コロナウイルス感染者が確認される	1/29(水)農水省、酪農ヘルパー全国協会、全酪連との意見交換会 R2年度ヘルパー関連対策事業及び今後のヘルパー事業の在り方や支援体制について意見交換。
	2/21(金)1430事務局長会議(参議院議員会館)
	3/4(水)1000三役会議(全酪連会議室)
	3/4(水)1500中央常任委員会(役員改選の件)
	3/5(木)新型コロナウイルス感染防止対策に伴う緊急支援に関する要請活動(衆議院・参議院議員会館、農林水産省)
4/16(木) 新型コロナウイルス感染拡大に伴い、政府より緊急事態宣言が発令される。	3/30(火)佐藤委員長が江藤農林大臣より新型コロナによる影響等についてのヒアリングを受ける。(オンライン)佐藤委員長より、新型コロナの影響による乳製品需給及び生産現場への支援についての要請を行う。
	4/6(月)新型コロナウイルス感染防止対策に伴う緊急支援要請活動(幹事長・事務局長:衆参議員会館、農林水産省)
	5/7(木)医療福祉機関等への牛乳等の提供に対する支援を軸とした「牛乳等消費拡大対策支援事業」の実施について本連盟をはじめ関係4団体の連名で自民党農林・食料戦略調査会長、農林部会長へ要請を行う。
5/25(火) 緊急事態宣言が解除される、	6/2(火)農林水産省訪問 新型コロナ関連対策と需給情勢について意見交換(委員長・幹事長・事務局長)
	6/3(水)新型コロナウイルス関連対策に関する要請活動(衆議院・参議院議員会館、委員長・幹事長・事務局長)、
	6/30(火)正副委員長会議 於 酪農会館会議室 今後の会議日程、令和3年度酪農関連対策要請内容について協議
7月 新型コロナ感染拡大(第2波)	7/1(水)衆議院・参議院会館へ要請活動(正副委員長・幹事長・事務局長)
	7/15(水)自民党酪政会役員会 於 自民党会館(新型コロナ感染対策に伴い) 令和3年度酪農関連対策について委員長より要請、意見交換等終了後、正副委員長会議を開催。R3年度予算要請内容等について協議。
9.8(火)自民党総裁選告示	8/25(火)正副委員長会議 於 参議院議員会館 今後の会議日程、令和3年度酪農関連対策要請内容等について協議 会議終了後、中央酪農会議との意見交換会を実施。
9.11(金)日英包括的経済連携協定(日英EPA)が大筋合意される	9.2(水)自民党酪政会総会開催 於 参議院議員会館講堂 酪政会総会終了後中央委員会を開催。令和3年度酪農関連対策要請内容等について協議
9.14(月)自民党総裁選投票開票 菅義偉氏が第67代総裁に選出される	9/24(木)自民党農林・食料戦略調査会、農林部会の合同会議における団体要請において、佐藤委員長より令和3年度酪農関連対策・予算について要請を行う。
9.16(水)臨時国会招集。菅義偉総裁が第99代内閣総理大臣に指名され、菅内閣が発足。農相には野上浩太郎氏(参 富山)が就任した。なお、副大臣には葉梨康弘氏(衆・茨城)、宮内秀樹氏(衆・福岡)が就任。	10/5(月)野上農林水産大臣と面会 (佐藤委員長)
	10/6(火)正副委員長会議開催。令和3年度酪農関連対策要請について協議。 終了後、農水省訪問し、葉梨副大臣と面会。
11月 新型コロナウイルス感染者が急増(第3波)各地で過去最高の感染者数を記録する	11/5(木)自民党農林・食料戦略調査会、農林部会の合同会議に置ける団体要請において、佐藤委員長より令和3年度税制改正について要請を行う
	11/1(水)中央委員会 於 参議院議員会館 令和2年度畜産物価格及び関連対策に係る要請等について協議
	12/2(水)自由民主党畜産・酪農対策委員会が開催され佐藤委員長より団体要請を行う
	12/4(金)自由民主党畜産振興議員連盟総会が開催され、令和2年度畜産物価格について佐藤委員長より団体要請を行う。
	12/9(水)自民党 農林・食料戦略調査会等合同会議が開催され令和3年度畜産物価格等の決定報告がなされる
R3.1月 新型コロナウイルス感染者急増に伴い、感染者数増加が著しい都府県を対象とした緊急事態宣言が発令される。	



#### 4. バター、脱脂粉乳の生産・在庫状況

■ R2年12月生産量:バター5.9千トン(前年比103.7%)、脱脂粉乳13.7千トン(前年比107.3%)

■ R2年12月末在庫量:バター35.1千トン(前年比148.8%)≪2.9か月≫、脱脂粉乳82.2千トン(前年比118.7%)≪6.8か月≫

(参考:31年度年間出回り量月平均、バター6.8千トン、脱粉10.7千トン)

	バター生産		脱脂粉乳生産	
	生産量	前年比	生産量	前年比
28年度	63,583	95.90%	123,500	94.86%
29年度	60,087	94.50%	121,583	98.45%
30年度	65,898	99.57%	120,064	98.75%
R1年度	65,496	99.39%	139,463	116.16%
R2. 4	8,472	131.39%	14,118	110.63%
5	7,555	126.46%	13,680	118.02%
6	5,478	109.58%	10,197	104.60%
7	5,029	92.02%	9,895	94.79%
8	5,127	108.60%	9,804	107.75%
9	3,970	103.57%	8,267	105.49%
10	4,645	116.77%	10,219	120.32%
11	4,675	113.80%	11,001	119.34%
12	5,992	103.67%	13,715	107.29%
R2. 4~ R3.12	40,276	114.94%	87,181	110.84%

#### 5. 生乳・生産物・配合飼料価格の推移(前年同月比)

	総合乳価 [円/10kg]		乳廃牛 [円/生体1kg]		子牛(千円/頭)						乳用牛配合飼料 (千円/ばら1トン)	
	価格	前年比	価格	前年比	ホルオス		交雑種		ホルメス		価格	前年比
27年度	996	104.51%	326.7	128.60%	71.3	155.73%	190.3	119.78%	267.3	115.73%	73.1	100.76%
28年度	1,012	101.61%	312.0	95.50%	105.8	148.38%	247.2	129.86%	407.7	152.53%	68.5	93.79%
29年度	1,024	101.19%	273.3	87.61%	107.5	101.55%	251.1	101.60%	466.9	97.23%	67.5	98.55%
30年度	1,028	100.39%	255.1	93.33%	130.9	121.78%	244.5	97.38%	433.1	92.76%	70.3	104.02%
R1年度	1,046	101.78%	296.4	116.18%	117.7	89.95%	258.2	105.58%	383.4	88.53%	70.0	99.60%
R1.12	1,053	103.24%	227.0	85.24%	98.9	74.81%	217.6	81.93%	412.6	90.62%	71.1	99.66%
R2.1	1,053	101.35%	287.9	121.68%	98.8	82.20%	209.3	81.03%	386.1	89.81%	71.1	99.62%
2	1,053	101.74%	290.9	123.84%	115.0	106.38%	211.9	89.67%	378.6	88.75%	71.2	99.69%
3	1,054	99.62%	263.9	108.76%	126.3	104.90%	206.8	84.00%	364.3	85.60%	71.4	100.85%
4	1,046	101.19%	283.2	98.95%	115.5	88.37%	195.5	71.22%	378.8	85.07%	70.4	100.07%
5	1,032	101.67%	290.7	90.25%	124.4	88.16%	198.8	67.21%	341.7	79.01%	70.4	100.07%
6	1,033	99.33%	278.8	87.65%	130.9	97.25%	216.4	69.07%	357.2	86.03%	70.3	100.98%
7	1,058	101.54%	275.1	85.94%	129.6	96.36%	208.4	69.54%	356.8	95.40%	69.8	100.26%
8	1,071	101.61%	289.3	88.50%	113.5	83.83%	214.6	70.27%	232.4	63.38%	69.8	100.26%
9	1,063	99.91%	262.9	80.42%	95.2	70.31%	157.9	51.70%	340.9	92.96%	69.8	100.26%
10	1,081	100.56%	256.1	78.34%	85.5	63.15%	135.8	44.47%	341.7	93.18%	71.3	102.41%
11	1,075	100.00%	252.9	77.36%	98.6	72.82%	151.1	49.48%	348.0	94.90%	71.3	102.41%
12	1,069	98.89%	265.4	85.31%	100.9	87.74%	158	73.63%	347.5	99.54%	71.4	102.60%

資料:農林水産省「農業物価統計」

注:1.平成8年度以降の総合乳価平均価格は牛乳乳製品課推計。

資料:農林水産省「農業物価統計」

3.乳子牛価格について、ホルオスは生後7~10日、ホルメスは生後6カ月程度。F1オスについては、道内11市場における加重平均。

4.配合飼料価格は、小売店頭等での購入価格。

5.( )内は年度平均価格については対前年度比、月平均価格については対前年同月比。

## II 牛肉、子牛価格の動向

(1) 11月推定出回り量88千トン(前年比98.8%)、推定期末在124,502トン(前年比104%)

年度 月	生産量		輸入量		国内生産量の割合	推定出回り量					
						合計		うち輸入量		うち国産品	
28	324,257	97.55%	525,694	107.92%	38.15%	861,099	104.58%	538,565	108.77%	322,534	98.25%
29	329,730	97.55%	571,854	108.78%	36.57%	903,841	104.96%	575,804	106.91%	328,037	101.71%
30	332,857	100.95%	619,686	108.36%	31.66%	930,371	102.94%	600,550	104.30%	329,821	100.54%
10	28,234	98.11%	55,378	107.70%	33.77%	81,831	103.13%	55,809	109.91%	26,022	91.08%
11	33,361	97.19%	47,285	91.49%	41.37%	88,627	106.64%	55,352	110.52%	33,275	100.76%
12	30,348	98.44%	47,285	99.31%	39.09%	88,100	104.91%	60,319	113.89%	27,781	89.57%
R2.1	25,803	103.76%	47,410	93.76%	35.24%	66,511	91.34%	38,795	81.53%	27,716	109.84%
2	24,758	99.53%	41,826	104.29%	37.18%	69,668	107.64%	45,116	112.67%	24,553	99.49%
3	25,572	96.94%	47,577	121.22%	34.96%	67,927	95.19%	43,056	95.67%	24,871	94.39%
4	27,096	102.72%	69,005	175.82%	28.20%	80,730	113.14%	54,668	121.47%	26,062	98.91%
5	25,244	98.15%	50,040	103.04%	33.53%	69,257	96.93%	44,301	97.67%	24,966	95.68%
6	27,825	109.94%	50,709	107.24%	35.43%	78,405	115.50%	50,065	114.73%	28,339	116.89%
7	30,660	100.50%	52,640	84.18%	36.81%	86,251	101.52%	55,748	103.31%	30,503	98.41%
8	25,688	104.41%	47,207	88.14%	35.24%	74,014	93.83%	48,686	88.62%	25,328	105.79%
9	27,100	103.66%	44,258	87.58%	37.98%	77,368	101.59%	51,286	101.78%	26,082	101.22%
10	29,433	104.25%	50,951	92.01%	36.62%	82,463	100.77%	53,889	96.56%	28,754	110.50%
11	33,750	101.17%	48,409	102.38%	41.08%	88,136	99.45%	55,407	100.10%	32,729	98.36%
12	31,285	103.09%	49,249	104.15%	38.85%	83,050	94.27%	53,173	88.15%	29,877	107.54%
R2. 4~11	258,081	(1) 11%	413,219	95.56%	38.44%	636,624	98.74%	414,050	97.17%	222,763	101.90%

(2) 乳子牛(ホル雄)価格の推移 <農水省農作物価指数>

[単位:円/頭(前年同月比%)]

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	平均
29	81,570	94,520	105,100	112,600	116,900	130,000	118,600	102,200	93,120	101,500	114,000	119,400	107,459
	76.74%	86.48%	96.96%	98.95%	92.63%	101.17%	99.58%	102.32%	106.31%	115.85%	121.35%	133.78%	101.55%
30	116,000	129,900	148,800	157,600	152,200	145,100	132,200	120,200	108,100	120,400	123,100	116,800	130,867
	142.21%	137.43%	141.58%	139.96%	130.20%	111.62%	111.47%	117.61%	116.09%	118.62%	107.98%	97.82%	121.78%
31	103,600	109,300	130,700	141,100	134,600	134,500	135,400	115,000	103,000	96,700	99,770	102,000	127,788
	89.31%	84.14%	87.84%	89.53%	88.44%	92.69%	102.42%	95.67%	95.28%	80.32%	81.05%	87.33%	97.65%
R2	84,140	82,610	82,040	115,500	124,400	130,900	121,500	113,500	87,690	85,540	98,620	100,900	102,278
	81.22%	75.58%	62.77%	81.86%	92.42%	97.32%	89.73%	98.70%	85.14%	88.46%	98.85%	98.92%	80.04%

■肉用子牛基金:31年度→乳用種=保証基準価格161,000円、合理化目標価格108,000円、交雑種=同269,000円、同212,000円。但し、令和元年度10月からの消費税増税(8→10)に伴い、乳用種=保証基準価格164,000円、合理化目標価格110,000円、交雑種=同274,000円、同216,000円へ期中改定。R2年度→乳用種=補償基準価格164,000円、合理化目標価格110,000円、交雑種=同274,000円、同206,000円 令和3年度→乳用種=補償基準価格164,000円、合理化目標価格110,000円、交雑種=同274,000円、合理化目標価格216,000円

補給金交付単価は、24第1四半期:乳用種34,350円、第2四半期:乳用種24,100円、第3四半期:乳用種18,200円、第4四半期:乳用種10,600円、25年度、26年度、27年度、28年度、共に全期間補填実績なし

29年度、第1四半期乳用種0円、第2四半期:乳用種0円。第3四半期:乳用種0円。第4四半期:乳用種0円。

30年度、第1四半期乳用種0円、第2四半期:乳用種0円。第3四半期:乳用種0円。第4四半期:乳用種0円。

31年度、第1四半期乳用種0円、第2四半期:乳用種0円。第3四半期:乳用種0円。第4四半期:乳用種0円。

R2年度、第1四半期乳用種0円 第2四半期乳用種0円 第3四半期乳用種0円

## III 飼料等の動向

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
29	67,510	67,570	67,580	67,780	67,760	68,440	67,630	67,420	67,370	67,060	67,170	67,170
	95.16%	95.25%	95.53%	100.49%	100.55%	101.56%	98.73%	98.41%	98.35%	99.64%	99.66%	99.60%
30	68,910	68,810	68,840	70,060	70,110	71,340	71,370	71,370	71,420	70,800	70,710	70,700
	102.07%	101.84%	101.86%	103.36%	103.47%	104.24%	105.53%	105.86%	106.01%	105.58%	105.27%	105.26%
31、令和元	70,380	70,350	70,400	69,620	69,590	69,620	69,440	69,410	69,420	70,200	70,310	70,310
	102.13%	102.24%	102.27%	99.37%	99.26%	97.59%	97.30%	97.25%	97.20%	99.15%	99.43%	99.45%
令和2	71,180	71,250	71,410	70,470	70,450	70,320	69,840	69,820	69,850	71,330	71,380	
	101.14%	101.28%	101.43%	101.22%	101.24%	101.01%	100.58%	100.59%	100.62%	101.61%	101.52%	0.00%

■配合飼料販売価格の改定幅と補填の実施状況

[単位:円/トン(補填交付金)]

	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月
29	1,950(950)	700(1,700)	▲1,100(400)	▲400(0)
30	1,500(0)	1,100(300)	1,550(3,450)	▲800(2,300)
令和1(31)	500(300)	850(0)	▲400(0)	▲650(150)
令和2	700	▲800(0)	▲800(0)	1,350(0)
令和3	3,900(未定)			

■米国产の穀物需給見通し（米国農務省2月9日発表）

<期末在庫量>

大豆は、前月に比べ生産量は横ばい。需要は微増。在庫予想は微減となった。  
小麦は、前月に比べ、生産量、需要とも横這い。在庫予想も横這いとなった。  
とうもろこしは前月に比べ生産量は横ばい、需要は微増。在庫予想は横ばいとなった。

- \* 大豆 前月に比べ、生産量は減少。需要は増加。在庫予想は減少となった。  
(前年比23%)
- \* 小麦 前月に比べ、生産量は横ばい、需要は微増。在庫予想はほぼ横ばいとなった。  
(前年比81%)
- \* トウモロコシ 前月に比べ、生産は減少、需要はほぼ横ばい。在庫予想は減少となった。  
(前年比79%)

<米国の穀物需給情勢>

	生産 1億1,255万トン
大豆	需要 1億2,453万トン
(9/1~8/31)	期末在庫率15.6% 期末在庫325万トン(前年比22.8%)
	生産 4,969万トン
小麦	需要 5,748万トン
(9/1~8/31)	期末在庫率 39.1% 期末在庫2,276万トン(前年比81.3%)
	生産 3億6025万トン
トウモロコシ	需要 3億7022万トン
(9/1~8/31)	期末在庫率 10.6% 期末在庫3,942万トン(前年比78.7%)

■シカゴ相場〔ドル/ブッシェル〕

■為替相場〔東京・銀行間直物中心、円/ドル〕

	トウモロコシ	大豆	小麦		対ドル 円相場
12年	6.95	14.66	7.51	12年	82.89
13年	5.78	14.07	6.84	13年	100.16
15年	3.77	9.45	5.07	15年	120.13
	4.00	8.50	4.90	2019年8月19日	107.41
2019年9月6日	3.40	8.50	4.60	2019年9月17日	109.20
2019年10月4日	3.80	9.20	4.90	2019年10月16日	109.74
2019年11月1日	3.90	9.20	5.20	2019年11月25日	109.81
2019年12月6日	3.70	8.90	5.30	2019年12月15日	110.56
2020年1月3日	3.90	9.30	5.60	2020年1月20日	111.19
2020年2月7日	3.80	8.80	5.60	2020年2月24日	113.11
2020年3月23日	3.80	8.50	5.50	2020年3月23日	111.20
2020年4月3日	3.30	8.50	5.50	2020年4月3日	109.11
2020年5月1日	3.10	8.50	5.20	2020年5月1日	107.27
2020年6月5日	3.30	8.70	5.20	2020年6月19日	106.90
2020年7月20日	3.40	8.90	4.90	2020年7月20日	106.90
2020年8月20日	3.10	8.70	5.00	2020年8月20日	106.08
2020年9月4日	3.50	9.70	5.40	2020年9月18日	104.70
2020年10月15日	3.80	10.20	8.30	2020年10月15日	105.40
2020年11月16日	4.10	11.00	6.00	2020年11月16日	104.58
2020年12月21日	4.20	12.20	5.70	2020年12月21日	103.45
2021年1月20日	5.00	13.80	6.40	2021年1月19日	104.08
2021年2月10日	5.50	13.70	6.40	2021年2月18日	105.88

■海上運賃〔米ガルフ→日本、穀物、パナマックス(5~8万トン級)、ドル/トン〕

【20年度93.37 21年度70.26 22年度61.23 23年度51.57 24年度45.75】  
 30年1月平均=45.52 2月平均=43.95 3月平均=46.81 4月平均=45.81 5月平均=45.31 6月平均=47.11  
 7月平均=49.36 8月平均=48.85 9月平均=49.83 10月平均=52.45 11月平均=49.77 12月平均=49.59  
 31年1月平均=43.55 2月平均=39.05 3月平均=43.90 4月平均=47.02 R元年5月平均=47.38 6月平均=44.41  
 7月平均=54.11 8月平均=55.69 9月平均=57.94 10月平均=53.18 11月平均=48.64 12月平均=50.11  
 R2年1月平均=52.35 2月平均=48.22 3月平均=46.58 4月平均=41.11 5月平均=40.21 6月平均=43.10  
 7月平均=49.97 8月平均=51.96 8月平均=51.96 9月平均=48.69 10月平均=49.63 11月平均=48.84  
 12月平均=50.78 R3.1月平均=52.73 2月平均=53.91